

【用語】 実正—真実で間違いないこと 勝手次第—自由に、心のままに 故障—差し障り、異議 加判人—保証人 埒明—物事を片付ける、解決する 聊—少しも 草木村・沢入村—勢多郡東村

【解説】 勢多郡東村の沢入から草木の地域には沢入みかげ石と呼ばれる花崗岩が分布している。草木村はその大部分が昭和五十一年（一九七六）に完成した渡良瀬川の草木ダムによって湖底に沈んだが、現在残っている地域では大正期以降、花崗岩の採掘・加工が行われ、東村の地場産業の一つとなっている。

採石の開始時期は明らかでないが、この文書が、草木村の石売人が沢入村の商人清六（小倉家）に切石を三四枚・代金一兩二分二朱で販売した際の証文であることから、おそくとも幕末期には石材の切り出しが行われていたことが推定される。切石の長さは約六〇寸から二尺余とある。現在、この地域のみかげ石は墓の外柵や建築用材・造園材などに加工されているが、小倉家がどのような目的で購入したのかは不明である。なお、大正期に本格化した加工業は、大正元年（一九一三）に開通した足尾鉄道のトンネル工事に関係した四国や茨城県の石工等が始めたもので、敷石や燈籠・鳥居などの材料として使われた。